



ロータリー情報

2016年規定審議会における職業奉仕の変更点

2016年の規定審議会におきまして、標準ロータリークラブ定款第5条に規定されております五大奉仕部門の職業奉仕の定義が追加されました。

この提案は、2840地区（群馬県）から提案（16-10 奉仕の第二部門を改正する件）であり、254：210で修正採決され、今回の標準ロータリークラブ定款の改定となったもので、今回の改訂で、下記のアンダーライン部分が追加されました。

第5条 五大奉仕部門

ロータリーの五大奉仕部門は、本ロータリークラブの活動の哲学的および実際的な規準である。

2. 奉仕の第二部門である職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を実践していくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うこと、そして自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれる。

これは、職業奉仕はロータリアン個人の職業倫理道徳向上運動という定義に、更に新たにクラブとしての役割が追加された形になっています。

しかし、これは今回の変更で、RIの職業奉仕に関する定義が新しく変わったと言う事ではなく、もともと1987年にRI理事会によって決定された「職業奉仕に関する声明」（2014年1月の理事会において、一部改正）に沿って、改めてその定義を修正したことになります。

ここで、1987年にRI理事会によって制定された「職業奉仕に関する声明」（2014年1月の理事会で一部改正）を確認してみましょう。

2014年1月理事会決定で、1987年の制定の職業奉仕に関する声明の一部が下記のように修正されました。

職業奉仕に関する声明

職業奉仕とは、あらゆる職業に携わる中で、奉仕の理想の実践をロータリーが培い、支援する方法である。

ロータリーの目的の第2項は、職業奉仕の基本原則として、特に次の各項を奨励することにある：

- ・職業上の高い倫理基準を保ち、

- ・役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、
- ・社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする；

職業奉仕理念に本来込められているものは次のものである。

- 1) ~~あらゆる職業において最も高度の道徳的水準を守り、推進すること。その中には雇主、従業員、同僚への誠実、忠実さ、また、この人たちや同業者、一般の人々、職業上の知己すべてに対する公正な扱いも含まれる。~~
- 2) ~~自己の職業またはロータリアンの携わる職業のみならず、あらゆる有用な職業の社会に対する価値を認めること。~~

→

職業奉仕は、ロータリークラブとクラブ会員両方の責務である。

クラブの役割は、頻繁に職業奉仕を実践することによって、クラブ自身の行動に職業奉仕を応用することによって、模範となる実例を示すことによって、また、クラブ会員が自己の職業上の手腕を発揮できるようなプロジェクトを開発することによって、目標を實踐、奨励することである。クラブ会員の役割は、ロータリーの原則に沿って自らの行いと事業と職業を律すること、また、

特に今回の16-10では、「自己の職業上の手腕を社会の問題」と「ニーズに役立てることやクラブが開発したプロジェクトに応えること」と言うフレーズが定款第5条の五大奉仕の第2項 職業奉仕の定義に付け加えられました。

ところで、定款第5条にある五大奉仕の定義そのものは、2007年の規定審議会において、RI理事会提案により新設されたものです。それ以前の標準ロータリークラブ定款には、ロータリーの目的は書かれていましたが、「五大奉仕」を説明した文章はありませんでした。ロータリーの目的（かつて「綱領」と呼ばれていた）は、ロータリー運動の目的を定義したロータリーで最も大切なド

キュメントなのですが、そもそもロータリーの五大奉仕を定義したものではありません。そこで、2007年の規定審議会において、四大奉仕（現在、五大奉仕）の定義を明らかにするために、改めて定款の中に明文化されたのです。

その後、2010年の規定審議会の決定（10-87）で奉仕の第5部門として「新世代奉仕」が追加され、五大奉仕となりました。

2013年の規定審議会の決定（13-69）で、更に、「新世代奉仕」が「青少年奉仕」と改まりました。

第5条 五大奉仕部門

5. 奉仕の第五部門である青少年奉仕は、指導力養成活動、社会奉仕プロジェクトおよび国際奉仕プロジェクトへの参加、世界平和と異文化の理解を深め育む交換プログラムを通じて、青少年ならびに若者によって、好ましい変化がもたらされることを認識するものである。

最後に、1987年に発表された「職業奉仕に関する声明」について解説させて戴きます。

1987年チャールズ・C・ケラー RI会長は、RI職業奉仕委員会を40年ぶりに復活させ、「職業奉仕に関する声明」を発表し理事会は承認します。それを受けての1989年

の規定審議会における「ロータリアンの職業宣言」が採択されました。

この段階において、ロータリーの初期の職業奉仕理念は大きく変貌し、ロータリーの職業奉仕はクラブと会員個人の責務と定義されることとなりました。

つまり、従来からのロータリアン個人の職業倫理高揚運動に加えて、クラブが開発した職業奉仕のプロジェクトに参加したり、所謂職業ボランティア活動までもが職業奉仕活動として推奨されるようになったのです。

そしてRIはクラブが実践する職業奉仕の例として、RIはいくつかの方法を紹介しています。

- ・例会で、各会員が自分の職業について話し、互いの職業について学び合う。
- ・地域社会での奉仕プロジェクトで職業スキルを生かす。
- ・高潔の精神で仕事に取り組み、言動を通じて模範を示すことで倫理的な行動を周囲に促す。
- ・若者のキャリア目標を支援する。
- ・専門能力の開発を奨励し、指導する。

このあたりが日本のロータリアンが考える伝統的な職業奉仕とRIの定義する職業奉仕との違いになっているのではないのでしょうか。